

さばえまつり実行委員会の体制

さばえまつり実行委員会は、
専門性や出自、関心領域の異なる多様なメンバーで構成されています。



田野正臣 実行委員長

- ・ 鯖江生まれ鯖江育ち
- ・ 地元サッカーチームの代表

地域団体・事業者との
顔つなぎ・交渉・調整



森一貴 事務局長

- ・ 山形出身。鯖江に関わり 10 年
- ・ 大規模イベントの PM に強み

ビジョン決定・意思決定
全体のマネジメント



堤大樹 プロデューサー

コンセプト・企画設計
クリエイター連携



中川晴香 事務局 / 地域おこし協力隊

鯖江の人々との
関係構築、協働、連携

ほかにデザイナー、カメラマン・保育士、廃材活動家、大学生などが参画。

鯖江の特徴

鯖江市は、めがね産業などものづくりが盛んな、人口約7万人の都市。

ものづくりの歴史

めがねや漆器が有名で、職人も多い

市民主役の文化

NPO 活動が盛んで、
市民策定の「市民主役条例」がある



鯖江は、モノや暮らし、まちを
自分たちで「つくる」まち

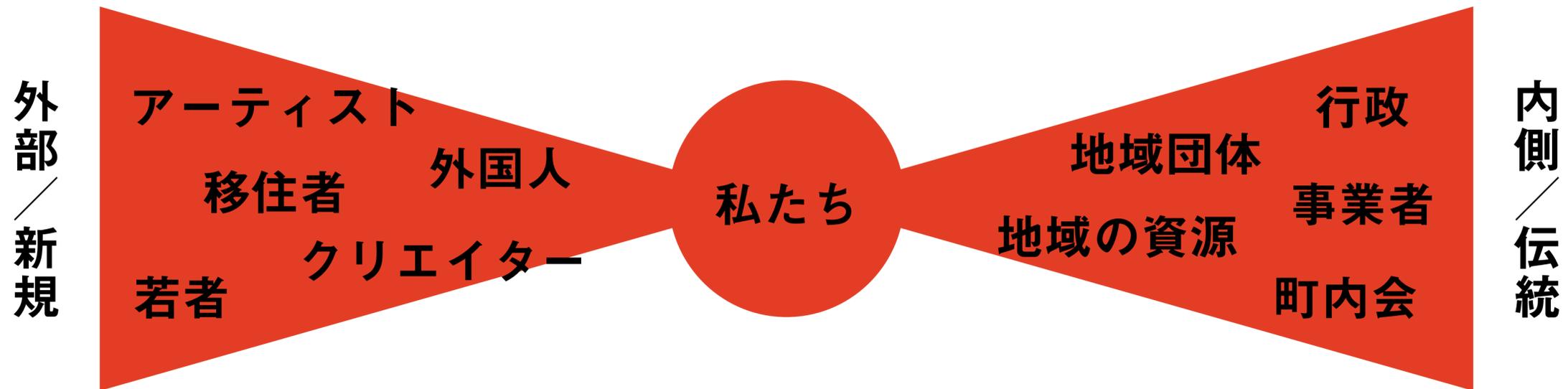
一方で…

課題

鯖江内の団体・活動がそれぞれ独立しており、
「外部や新規層との協働」「知見・経験の流動」が不足

私たちのミッション

私たちの役割は、**人々をつなぎ**、**変化を描く** こと



私たちは、協働を導いて地域に非連続な変化を生み出す
アートはさばえまつりにとって、「視点」と「協働」の源泉

つくりたい未来

多様な人々が行き交い、関わるなかから、
思いもよらない変化が生まれ続ける「鯖江」をつくる



さばえまつり

さばえまつりは、多様な人々が関わりあい
自分たち自身でつくりあげていく、
「つくる」を祝う祭典です。



さばえまつりの概要

さばえまつりは 2024 年に鯖江市西山公園で初開催された祭典。
今年度は、アーティストと市民が協働し鯖江の未来を試作する「3つの村」を実現した。

当日の様子



全体像



アーティスト連携企画



やぐら企画



物販・飲食

開催実績 (2025)

会期 2025/9/27-28

来場者 7,000 人

企画 80 企画

関与者 100 人超

※準備・制作活動に参加した人の実数



アーティストとの協働

一例として、2025年度にはアーティスト・武徹太郎氏が約1ヶ月の滞在制作を実施。市民と協働で鯖江の昔かたりを再解釈し、巨大な紙芝居を制作・上演した。

アーティストとの協働プロセス例

①
調査



鯖江の重鎮や学芸員などにヒアリングを実施。昔かたりを聞き取り、自分たちで新たな「民話」を執筆した。

②
制作



44名の協力を得て、巨大な紙芝居を制作。さらに衣装や提灯、装飾などを制作したうえで、パフォーマンスを練習した。

③
上演



「幻燈音楽祭」と銘打って、さばえまつり当日はもちろん、田んぼや古墳などでパフォーマンスを実施した。関西万博でも招待公演を実施。

地域との協働と変化

- さばえまつりでは、「お祭りの2日間」だけではない継続的な関わりが重要である。
- 私たちは変化の段階を設定し、各段階に応じた「舞台」を提供しているが、これにより、関わる人々に変化が生じ始めている。

変化の段階



生まれた変化の例



- さばえまつりにインターンで訪れた若者が、鯖江に移住して地域おこし協力隊になり、子どもの居場所を開設
- 「幻燈音楽祭」に関わった地元のラッパーが、仕事をやめて独立
- 実行委員長が、商店街の空きテナントを活用してバーを始める

現状の課題と次年度へのチャレンジ

今、できていること

アーティストと地域の協働
当日の盛り上げりの担保



現状の課題

「地域に変化を生み出し」、
「活動を持続させる」ための基盤不足



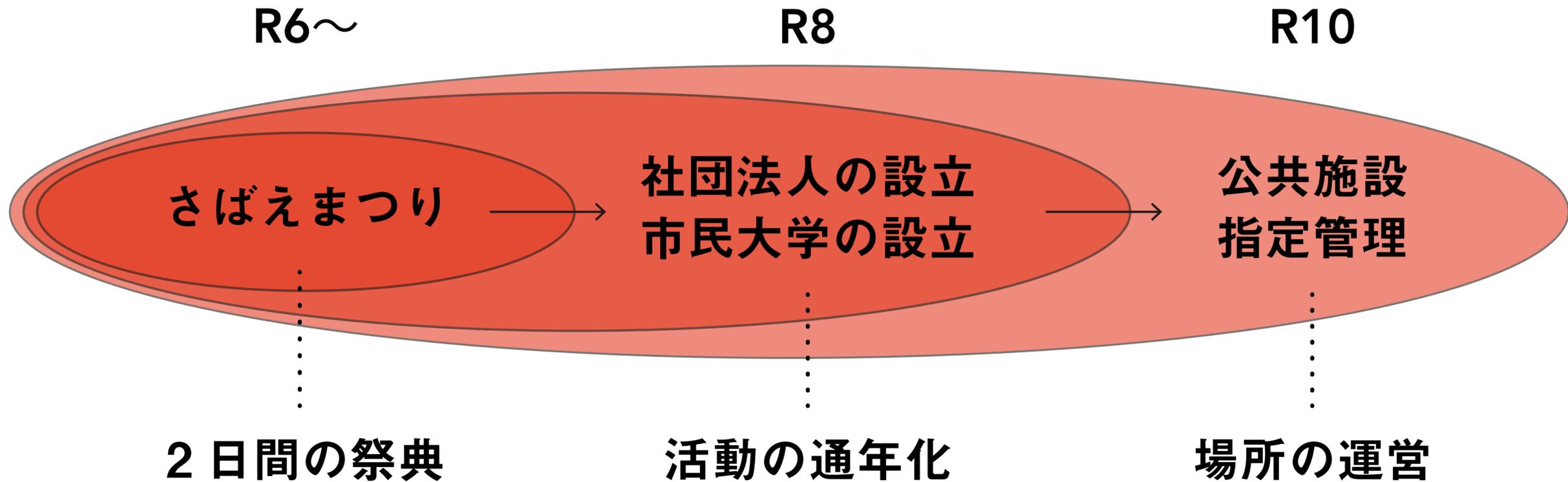
次年度へのチャレンジ

- ① アーティストとの活動を持続させる・地域にバトンパスする
…武徹太郎氏と「龍の儀式」を制作し、継続的に上演される下地をつくる
- ② 参加者たちに権限を移譲する仕組みをつくる
…各団体が主導し「エリア」を形成してもらう仕組みをつくる
- ③ これまでの取り組みの省察と、知識の可視化

今後の展開

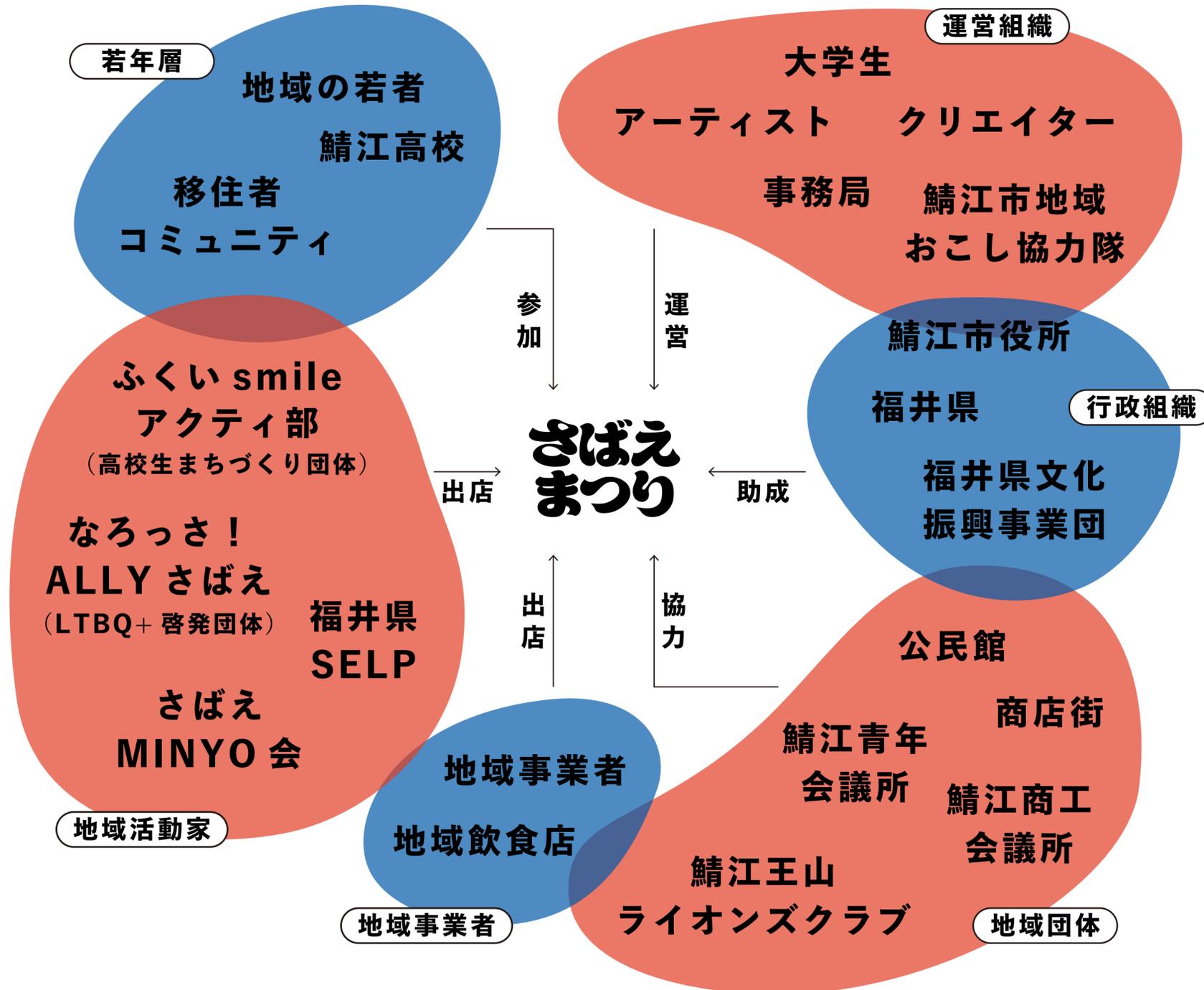
今後は、さばえまつりを維持しつつ、
行政と深い連携体制を築き、
活動の通年化、場の運営へも活動を展開していく予定です。

今後の展開イメージ



私たちは、内外をつなぎ、未来を描きながら、
鯖江に実際的な変化を生み出す組織へと成長していきます

さばえまつりを取り巻く関係性



発起人の自己紹介



森一貴

さばえまつり実行委員会 事務局長
 東北芸術大学企画構想学科 専任講師
 鯖江市役所 政策デザインアドバイザー

シェアハウス家主。アールト大学デザイン修士課程修了。人々が集い偶発的な変化が生まれる参加型デザインが専門。福井県鯖江市にて「さばえまつり」や「RENEW」をはじめ、持続可能な地域を目指すプロジェクトの企画・実施に携わる。受賞歴に令和2年度国土交通省「地域づくり表彰」最高賞・国土交通大臣賞（地域づくり部門）。共訳書にエツィオ・マンズイーニ『ここちよい近さがまちを変える』など。

過去の取り組み — RENEW



越前鯖江で開催される、工房見学やワークショップが楽しめる産業観光イベント。100社以上の工房を一斉開放し、3日間で50,000人以上が訪れる。森は5年にわたり、事務局長として地域事業者や組合、市役所や県、交通事業者を巻き込み、全体のプロジェクトマネジメントを担当した。